

活力ある秋田 Vol.9



国際教養大学理事長・学長 **中嶋 嶺 雄** (国際社会学者)

グローバル化と秋田の発展

国際化という言葉がもはや古くなっているとも思われる昨今の急速な社会変動は、世界が瞬時につながり国境がますます低くなっているグローバル化、つまり「全球化」の勢いを、まざまざと感じさせずにはおかない。その意味でグローバル化は、もはや避けて通れなくなっている。

日本の大学は、ではそのようなグローバル化に対応する体勢を整えているだろうか。否である。第一、大学までに10年間も英語を学んできているはずなのに、いまや国際語になっているその英語もまともに使えない卒業生を世に送り出しているのではないか。これでは、日本は国際社会で大きく立ち遅れてしまう。

このような反省と危機意識から、この秋田の地にこれまでの日本の大学とは根本的に異なった大学をわが国初の公立大学法人として立ち上げたのであった。「国際教養」をすべて英語で学び、全学生が授業料相互免除の特典を得て世界のトップクラスの大学に1年間留学でき、しかもキャンパスライフは寮生活、図書館は24時間オープンという他大学にはない特色のゆえに、全国から多数の優秀な学生がつかけてくれた(代々木ゼミナールの2009年「国公立大学入試難易ランキング」では、93%の国際教養大が92%の東大を抜き全国第1位となった)。現在80校を超える海外の大学と提携していることもあって、全世界から多くの留学生も来てくれている。

学生や留学生をお客様(クライアント)と考えれば、この秋田の地の全く無名の新設の大学に貴重な青春を賭けたお客様が全国・全世界から集まって来ているということは、大変に有難いことであり、国際教養大学の「集客力」は国公立大学のなかでも飛び抜けている。

これらのお客様がその保護者や友人知人を含めて秋田の地に注ぎ込んでくれる授業料や生活費・買

い物代などの総額は、その長期持続性からして、秋田県が貴重な税収を割いて出資された金額を遥かに上回ることであろう。最近のアンケート調査によっても、学生たちは留学生も含めて大学に大変満足しており、「第二の故郷」としての秋田の良さにも強い愛着をもってくれている。そのような彼らが全国・全世界に散らばって行ってくれることがもつアキタ・コネクションという活きた知的財産も、秋田にとっては大変に貴重であろう。その将来性を考えれば、企業誘致などよりも付加価値は高い。

国公立大学のなかでも 最小規模の大学でありながら、在学生の約4分の1が留学生という国際教養大学の出現によって、留学生数が全国最下位だった秋田県が東北六県では東北大学という大規模大学を擁する宮城県に次いで第2位になった。国際教養大学のような全国・全世界への受発信拠点が秋田県にさらに数箇所できれば、これからの「地方の時代」の活力あるリーダーとしての秋田の発展が、安定的かつ確実に保証されるに違いない。

■ 略 歴

- 生年・出身地 1936年、長野県松本市
- 学位 文学士(東京外国語大学<中国科>1960年)、国際学修士(東京大学1965年)、社会学博士(東京大学1980年)
- 1995~2001年 東京外国語大学長
- 1998~2001年 国立大学協会副会長
- 1998~2006年 アジア太平洋大学交流機構(UMAP)国際事務総長、文部科学省中央教育審議会委員(大学院部会長・外国語専門部会主査)
- 2000~2006年 財団法人大学セミナー・ハウス理事長
- 2004年~現在 国際教養大学理事長・学長
- 2006~2008年 内閣教育再生会議有識者委員

オーストラリア国立大学、パリ政治学院、カリフォルニア大学サンティエゴ校大学院の客員教授を歴任。平成15年度「正論大賞」受賞。社団法人才能教育研究会会長などを兼務。著書は『北京烈烈』(サントリー学芸賞受賞)『国際関係論』『21世紀の大学』など多数。

活力ある秋田の創造

挑戦する企業の育成

挑戦する人材の育成

あきた

Acci
AKITA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

商工会議所報

2008
DEC

12

No.699

挑戦する企業

(株) 四季菜 (秋田市)

秋田の食材を使った商品の製造販売をしている
同社。地元農家と手を携え、真のトレーサビリ
ティで秋田のおいしい食品を研究開発し、地元
食材に付加価値をつけ全国へ発信している。秋
田県特産品コンクールで数々の賞を受賞して
おり、写真の「みたらしぶりん」は平成20年度最
優秀知事賞を受賞。



2 活力ある秋田

国際教養大学理事長・学長／中嶋嶺雄氏 (国際社会学者)

4 特集 集中巡回&金融等特別相談会 報告

6 今月のトピックス「秋田ふるさと検定」合格発表



秋田商工会議所
URL <http://www.akitacci.or.jp/>
E-mail info@akitacci.or.jp